

発行人 今村久美子 編集人 土屋和子

〒191-0041日野市南平2-56-10 <http://www.angel-hino.com/>

Tel&Fax 042-583-1528

特定非営利活動法人市民サポートセンター日野 / 郵便振替番号 00180-0-612689

# Link

Linkは、わたしたちのNPOが市民と市民、市民と行政、市民と事業者、市民と学校、子どもと大人といった様々な人たちをリンク（Link：つなぐ）することを、そして心と心をつなぐことを目指しています

## くらしの支援 ~市民主体の分権型地域社会の実現に向けて~

理事長  
今村久美子



新年おめでとうございます。

旧年中は大変お世話になりましてありがとうございました。おかげ様で「NPO法人市民サポートセンター日野」は創設以来6度目の新年を迎えました。

この間皆様方には多大のご支援を頂きまして心よりお礼を申し上げます。

### ……NPOのかたち……

1998年に施行されたNPO法に基づいて現在4万近くのNPOが活発な活動を展開しています。

NPOとは何か、それは「日本の社会を市民が主体の成熟した市民社会へと進めて行くためのツール」の役割を担う主体であると認識しています。

直面している地域問題を解決し、その解決を通して社会構造や社会的秩序を自己責任型の分権型社会の形成へと主体的に促進して行く、それがNPOの社会的役割と言えます。

私達をとりまく社会経済情勢は国際化、高度情報化、そして少子・高齢社会の進展や環境問題の深刻化など大きく変化し、それに伴い人々の意識や価値観、ニーズは多様化、個別化、複雑化し、それらが様々な絡み合った複雑な社会的課題が発生しています。

今や行政のみの対応では限界に達し、NPOの柔軟かつきめ細かい活動が極めて重要になっています。

### ……地方分権化の時代へ……

2000年に地方分権一括法が施行され、活力ある地域社会の

実現に向けて、国の中央集権型のシステムから脱却し、地域に関しては地域住民と自治体はその特性を踏まえて主体的に決定するという真の地方自治の確立を目指し、国と地方は「上下・主従」の関係から「対等・協力」の関係に転換されました。その後更なる分権を目指して2007年には地方分権改革が進められ、地方分権化の動きは活発化しています。

市町においても公共サービス分野におけるNPOなど地方自治の担い手をめぐる様々な変化を踏まえて、地域分権のあり方についての見直しが必要になり、自治のあり方が問われています。

### ……私たちの役割……

NPOは行政が及ばない分野においても行政を超えて市民サービスに励んでおります。NPO、民間企業、行政という地域の主体が互いに連携、協働することによって市民が主役の地方分権型社会が実現します。

現在の激動する社会情勢の中で家族の形や文化も多様化し新しい課題が発生しています。私どもNPOは縦割り行政の枠を超えて、生活に完全密着した「家族支援」という「くらし」そのものの支援活動を行っております。

自治体という制度の前にNPOがあり、それが社会を支えて行くという市民主体の地方分権型社会の実現は時代の要請と言えます。

今後とも公共サービスの供給主体として全力で取り組んでまいります。本年もご理解、ご支援を頂きますよう心よりお願い申し上げます。

新年はフレンチと管弦楽鑑賞を楽しむ♪

## 食と音楽で体験する地産地消



毎年開催している新年会員交流会を2010年は指定管理者自主事業として行います。

テーマは「食と音楽で体験する地産地消」

日野で育てられた野菜や果物を使ったフレンチbuffetと日野で生まれ育った『多摩ファミリーオーケストラ』メンバーによる管弦楽アンサンブルを楽しみながら、食と文化（音楽）から地産地消を考えてみませんか？

日 時	2010年1月22日（金） 午後6時～8時30分
場 所	多摩平の森ふれあい館3階集会室6
参加費	3000円 (ただしNPO会員は1000円)
申込先	042-583-1528（岩出）
申込締切	2010年1月12日（火）



# 特集 家族支援

●日野市子ども支援事業そだちあい●

## 保育者の家族支援をサポート

今年度でそだちあい事業も3年目となり、各施設からの要望も変化してきていると感じます。当初は、施設職員が困っているという内容であったものが、困っている子ども自身を何とかしてあげたいという方向に変わってきています。子どもは日中の多くの時間を保育園、学童クラブで過ごしますが、子どもの背景にある家庭・家族はそれ以上に子どもの育ちの重要な環境です。家庭環境が複雑になり、様々な形態の家庭・家族の中で日々育っている子どもたちが、保育園や学童クラブで生き生きとその子らしく過ごせるよう、そだちあい支援アドバイザーは保育者に助言・支援しています。平成21年4月より保育所保育指針では、家族支援が保育者の重要な役割として位置付けられています。そだちあいでは、子どもへの対応に加えて、保護者への関わり方などについても助言し、保育者の家族支援をサポートしています。  
(室園理香子)

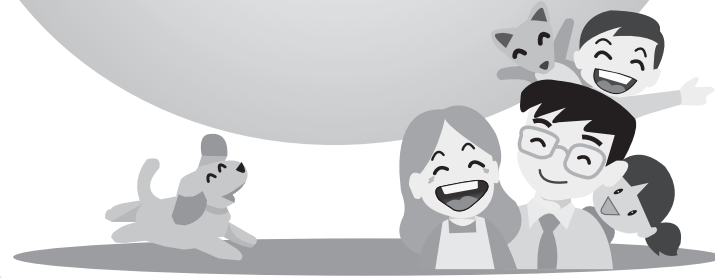


保育者の巡回カンファレンスの様子

## 家族という視点から見るNPO事業

当NPOが行っている事業は多岐にわたります。今回は「家族支援」という視点で事業をご紹介します。事業は日野市役所の様々な部から受託しています。縦割り行政の枠を超えて「家族支援」という生活に完全密着しているNPOの事業の様子をご一読ください。

このような事業を通して、市民の方々の家族を応援するとともに、係わってくださるNPO会員の方々が喜びややりがいを感じてくださればと願っております。(事務局長 土屋和子)



## すくすくサポーター、ひとり親ホームヘルパー

すくすくサポーター派遣は平成18年度から、ひとり親ホームヘルパー派遣は平成20年度から日野市担当課よりそれぞれ受託しています。

今回はすくすくサポーターのAさんと、ひとり親ホームヘルパーのBさんにお話を伺いました。すくすくを受託して間もなく、Aさんには出産後の若年のお母さんと赤ちゃんを3ヶ月間支援していただきました。その時、新生児だったお子さまはもう2歳。先日、散歩をしていたら、お母さんの方から「Aさん!」とお声をかけて下さり、成長して更にかわいくなったお子さまにビックリしたそうです。その何日か後、偶然に美容室でお母さんに再会。美容師さんに「娘がお世話になった第二のお母さんなんです」と紹介され、そんなふうに使っていただいたことを改めて感じ、支援してよかったと実感したそうです。

一方、ひとり親ホームヘルパー派遣は、すくすくサポーターのように派遣期間が限定されていないので、子どもの成長を見守りながら継続的に支援することになります。

Bさんはひとり親の家庭に夕食作りと3人兄弟の見守りで1年半以上通っています。末っ子はまだ小さくて、ヘルパーを親のように慕い、よく甘えてきます。いけないことをしたら叱ることもあります。夕食作りでは、冷蔵庫の食材をヘルパー流にコーディネートして、何とか一品つくることもよくあります。自分にとってもとてもよい頭の体操になり、子どもたちも「美味し〜い♥」と言って食べてくれるので本当に嬉しい。それがやりがいになります。孫ができたような気持ちでいつも見守っているそうです。

(森澤美和子)

## 「日野市発達支援システム構築のための調査」から

今年度、日野市福祉政策課からの委託を受けて「日野市発達支援システム構築のための調査」に取り組んでいます。これは平成25年度に市内に設立が予定されている発達支援センターのためのニーズ調査です。

「ほかの子どもに比べて発達に遅れがある」「うまく集団生活に溶け込めない」「コミュニケーション能力に不安がある」など発達に遅れやかたよりのある子どもの数が増えており、保育園や幼稚園、学校でもその支援について本格的な取り組みが始まっています。従来の支援のやり方に加え、それぞれのお子さんに適した、ライフサイクルを通じた継続的な支援をするにはどのようなシステムをつくっていけばよいのでしょうか。

NPOでは発達に遅れやかたよりのあるお子さんを持つ保

護者の視点から、そのニーズを探るべく、アンケート調査やインタビュー調査を行い、その「声」を拾うところから調査を開始しました。協力してくださった方からは「ぜひ日野の子どもたちのためによいセンターを作ってください」との熱いメッセージをたくさんいただきました。また、多摩地区や神奈川県先進事例も見学し、それぞれの参考にすべき点を分析したうえで考察部分において積極的に市に提言してゆく予定です。

福祉の世界では障害のある人もない人もすべての人にやさしい環境が「ユニバーサルデザイン」として目指すものとされています。「発達障害」という枠組みを作るのではなく、子育てにたずさわるすべての人が気軽に立ち寄り、相談ができるセンターを目指せればと思います。(齊藤晶子)

## ●日野市0歳児一時保育● 「0歳児ステーションおむすび」の親育ち講座

2回シリーズ「らくらく子育て〜子どもと楽しい時間を作ろう」わらべ唄講座は、平成20年1月スタート以来、100名近くのお母さんに受講していただいています。

1回目は前半が保育付きで、わらべ唄には子どもが成長していく上で、大事なことがたくさんふくまれているというお話を中心に講義を受け、後半に親子で実際に唄ってみます。

その後、約一ヶ月間おうちで実践し、2回目はわらべ唄の他、おうちでの様子や、子育ての悩み、パートナーとのコミュニケーションの取り方についてなどのお話をします。途中、お茶とクッキーで一息いれいただき、記念のカードも差し上げていて、現在キャンセル待ちが出るくらい人気があります。

この講座が、お母さん方の子育てにどのような影響があっ

たかを知るために、この度、効果測定(アンケート調査)を実施しました。わらべ唄については、子どもへのかかわり方を学べた、子どもが楽しんでいる、遊んで待てるようになったなどの回答が多く、子育ての悩みについては、講師や他の参加者の話を聞いて、参考になった、自分だけではないと気持ちが楽になったと答えてくださいました。また、パートナーが、育児の大変さを理解してくれたり、子どもをあやしたり、体をつかった遊びをするなどの姿が出てきたと、書かれた方もいました。ほとんどのお母さんがこの講座を受講して良かったと、感じてくださっていることがわかり、子育て支援で少しでも「おむすび」がお役に立てたと思うと、とてもうれしく、これからもたくさん0歳児のお母さん方に受講していただきたいと思っています。(桑名美雪)

## 日野市ファミリー・サポート・センター

ファミリー・サポート・センターでは昨秋、会員交流会および保育講習会が引き続き催されました。会場では、援助活動に携わる会員の方々の、家族支援に対する意欲が伝わってきました。

10月実施の会員交流会では「立川防災館ツアー」として防災館インストラクターの指導の下、震度7の体感、消火器を操作しての消火活動(写真)、グループで助け合いながらの煙室脱出など、全員が防災館のフルコースを体験しました。市民としての防災意識が高まると同時に、現実の援助活動でどのように生かしていくか考えるという貴重な体験となりました。

今年度2回目となった11月の保育講習会には40名近い参加があり、連日、熱心な受講風景が見られました。最終日のワークショップでは、実際の援助活動におけ

る疑問点を中心に地区リーダーの方と受講者の間で質疑、意見交換などがあり(写真)、受講者の皆さんの保育活動に踏み出そうとする熱意が感じられました。

さて、ファミリー・サポート・センターはおかげ様で平成21年11月現在、育児支援の会員登録者は3000名を突破しました。また、センターに今年度寄せられている依頼の中では、目立って妊産婦さんにかかわるものが増加しているようです。新生児の沐浴補助、出産直後の家事の援助、上のお子さんの保育といった内容で、日野市における家族支援の必要性がますます高まっていると実感しています。援助活動をする方々は異口同音に「赤ちゃんの愛らしい様子に癒される」とおっしゃいます。この街で若い世代が育っていくお手伝いができることをファミサポ一同うれしく、誇らしく思っています。  
(栗原明美)

立川防災館ツアー



保育講習会ワークショップ



# ワンコインコーヒー講座 開催



平成21年11月9日多摩平交流センター指定管理者の自主事業として調理室の稼働率アップを目的に、コミュニティカフェ「Café Green」とのコラボレーションにより「ワンコインコーヒー講座」（参加費500円）を開催しました。多摩平の森ふれあい館3階調理室にて開催された講座は定員を超える参加者が集い、「コーヒーと環境」の講義を聴いたり、コーヒーの淹れ方を実践したり、ケーキを食べながら歓談したり和気あいあいと楽しいひと時を過ごすことができました。

カフェスタッフは当日の講師を務める為に、事前にコーヒー専門店の店長さんからコーヒーの淹れ方の研修を受けました。

おうちでコーヒーの淹れ方を学ぶ

初めての試みであるコーヒー講座開催へ向けて当日まで、講義の内容（フェアトレード・森林農法・CO<sub>2</sub>削減等）を考えたり資料を集めたり、また受講者に渡すプログラムをスタッフの手作りで作ったり、と試行錯誤を重ね準備しました。当日はタイムスケジュールもほぼ予定通り進み、またなんといっても受講者の笑顔と和やかな雰囲気のうち無事に終了できたことが、何よりの喜びでした。「また開催して欲しい」との声をきいたあつという間の2時間でした。指定管理者として地域の皆様に多摩平交流センターを利用して頂ける機会を今後も増やしていきたいと思えます。

（三輪則子）

フェアトレードコーヒーの解説

ケーキもいただきながら歓談



## 「ふれ愛べり帖」 進行中

このたび多摩平交流センター指定管理者の自主事業として、多摩平の森ふれあい館受付案内業務の中で仮称「ふれ愛べり帖」を平成22年3月に発行することになりました。

以前から受付案内業務をしている中で、市民からの問合せに直ちに対応できる資料やシステム作りをしたらどうかとの意見があり、受付スタッフから編集委員を募り作成に取りかかりました。

内容は多摩平の森ふれあい館を利用しているすべてのサークル・団体に掲載の希望をとり、個人情報への遵守にも配慮した情報誌となります。作成にあたっては、ふれ愛べり帖の名称のとおり利用する市民にとって便利な資料となるべく、近隣の商店街の広告を掲載することも考慮して編集を進めています。

（増井乙女）



### 編集後記

コミュニティカフェCafé Greenではあおい通りのパンを扱い始めました。多摩平の森ふれあい館にお越しの際は、あったかいコーヒーとともにどうぞお召上がりください。（N）



### 2010年度NPO会員募集

NPOが活発な展開をするためには、NPOの趣旨に賛同し、活動を支援して下さる皆様のサポートなしには成り立ちません。ぜひ、会員の輪を広げるためにご協力をお願いします。

また、寄付も随時受け付けております。

◆一般会員（活動に参加して下さるひと） 1,000円 ◆賛助会員（活動を支援して下さるひと） 3,000円  
◆法人会員（活動を支援して下さる法人） 30,000円 ◆運営会員（運営に積極的にかかわるひと） 10,000円

◆入会金（一般会員、運営会員のみ1,000円）

会員特典 年3回の会報をお届けし、主催講座やイベント等にご優待します。

